



宮本 理一郎 議員

災害が発生したら、どう行動するか

岡崎総務課長 自分の安全確保後、連携避難を

問 今回の熊本地震において、本町の人的、物理的被害はどの程度か。
岡崎総務課長 本町では、14日が震度3、16日は震度4でした。人的被害を含め家屋、山林、河川、農地などの報告するよう大きな被害はなかった。

問 自然災害を抑え込むことは不可能だが人間の知恵で「減災」することは必要だ。また、自然災害を一律の防災対策として考えるのか、また、災害別に考えているのか。
岡崎課長 上毛町の防災計画では、①風水害などの応急対策②地震津波の応急対策③原子力、放射能災害を含む大規模事故応急対策を災害別で対策対応している。

問 人は、常識の範囲で計画を立てる。想定外となると難しいが、この想定外をどのように考えるか。
岡崎課長 自治体としては、想定外といった表現は使用できない。本町の防災計画は、震度6弱以上で全職員による非常事態体制を配備、まず駆けつける↓状況を把握する↓判断決定し、対策実行の流れがあり、危機管理の要諦は十分に認識している。

問 自然災害が二重三重の災害へ発展するいわゆる多重災害の想定は。
岡崎課長 5月18日から町内4箇所

ここが聞きたい！ 一般質問

「一般質問」とは

町の行財政全般にわたって、執行機関(町政)に対し、疑問点をだし、所信を求めることです。町民の生活に関わるとも身近なことが、議員が一般質問をしたことにより、改善されたり始められたこともあります。

議員は年4回の定例会で一般質問をすることができ、定例会開会前にあらかじめ質問内容を提出し、執行機関が答弁を考えます。質問する議員一人につき60分の持ち時間があり、その時間内であれば何回でも質問を繰り返すことができます。

今回の一般質問は6月10日(金)に行われた内容で、6人の議員が質問しました。本文は、質問答弁の内容を質問者により紙面の範囲内でまとめて掲載しており、全文詳細はHPにて会議録として掲載されておりますので参照ください。

また、一般質問の様子を傍聴することもできますので、ぜひ議場へお越しください。

第2回定例会一般質問

高畑 廣視 議員

健康増進施設の管理は

古原教務課長 指定管理者に指導



問 健康増進施設のトイレやロッカーの管理などはどうしているのか。
古原教務課長 施設の管理は公益法人豊前上毛シルバー人材センターに管理業務を委託している。契約の中で本来の効用持続年数※を維持するための業務として受託事業を実施することになっており、日々の管理の中で修理などを実施している。

※効用持続年数
通常考えられる維持補修を加える場合を前提にした耐用年数。

問 女子トイレの修繕が必要では。
古原課長 利用者の要望や指摘により実施することもあるとの話しを聞いています。女子トイレは指定管理者と現状を確認し指示した。



上毛町健康増進施設

問 本町公共施設における耐震化率は現状は、どのようになっているのか。
岡崎課長 庁舎は診断により改修の必要なし。避難所となる施設も基準をクリアしている。その他耐震化の必要な部分は、改修改善を考えている。

問 一般家屋、民間施設などの耐震化の推進と、それに伴う補助対象は。
岡崎課長 民間家屋、建物の耐震化に対する補助金メニューを準備している。

問 有事の際、避難は重要な問題。地区、自治会の住民連携はできているのか。
岡崎課長 自治会ごとに防災推進員があり、個別の避難計画を作成している。また防災訓練の実施も要請している。

問 熊本地震被災地の被災者支援は具体的にどのように実施したのか。
岡崎課長 5月18日から町内4箇所

問 今後どういった対応を行うのか。
古原課長 指定管理者には、しっかり利用者の利便性を損なわないよう維持管理をするよう指導した。

さわやか市「大平」の売上げデータの管理は

問 さわやか市「大平」の売上げデータを出荷者に知らせる際のデータ送信について、内容の詳細がわからないのだが。
垂水(勇)産業振興課長 指定管理者が出荷者から要望を受けてシステム業者に問い合わせたところ「現状についてはシステム改修は難しい」との回答があり、その結果を出荷者に報告していると認識している。

問 以前から要望があったのでは。
垂水課長 今回改めて指摘があり、指定管理者に確認したところ、「改修の可否について検討する」との返答があった。その結果については出荷者に伝えるよう指導している。

問 この問題はいつ頃出たか、知っているのか。
垂水課長 今に始まったことでは

ないが、先程も答弁したように現状ではシステム改修は困難と認識している。

問 数年前から出ている問題で改修にはお金がかかるかと答弁して今に至っているがどう考えるか。
垂水課長 さわやか市「大平」も含め、運営は指定管理者に依頼しており、システムの改修は基本的に指定管理者が行うものと認識している。

問 昨年のある会合で、指定管理者はこの問題を認識していないか。
垂水課長 指定管理者については企画情報課が担当しており、毎月定例会を行っている。再度確認し、できる、できない、いくら費用がかかるかなど確認し、報告したいと考えている。

問 できるだけ出荷者の要望に応じて頂きたいと思うが。
坪根町長 ご指摘の点は指定管理者に私から伝えたいと思っています。



問 2040年に1万人構想を掲げているがこの数字的根拠は。
福田課長 人口減少、少子高齢化が進む中、委託業者の調査では、何も手を打たなければ本町の人口は平成52年には5500人程度になると予測されている。合計特殊出生率や、純移動率などのデータを参考に、目標設定したものである。

問 自然環境に恵まれ、より住みやすい利便性のある上毛町にするには、町づくり・人づくり・仕事づくりが三位一体となって事業展開すべきでは。
福田課長 仕事を呼び、人が仕事を呼ぶ活気ある町づくりを行い、好循環が機能し、新たな人の流れを生み出す地域社会を創り出すことだと考えている。

問 国策として地方創生、活性化を推進する中、上毛SIC周辺から大池公園の総合整備を具体的に展開中である。これはまち・ひと・しごと創生の実現を今後目指していく上で必要不可欠な事業であり継続推進すべきと思うが。
坪根町長 本町には、多くの伸びるが十分あると思っている。地方創生を加速化させ、「まちづくりはひとつづくり」であると考える。



山国川水防演習

人口ビジョンの位置づけは

問 3月に人口ビジョンの完全版ができたが、この位置づけは。
福田企画情報課長 本町人口の現状を分析し、地方総合戦略において効果的施策を企画立案する上での重要な基礎資料である。